

遠距離恋愛支援システム：遠隔における非言語コミュニケーション手法の提案

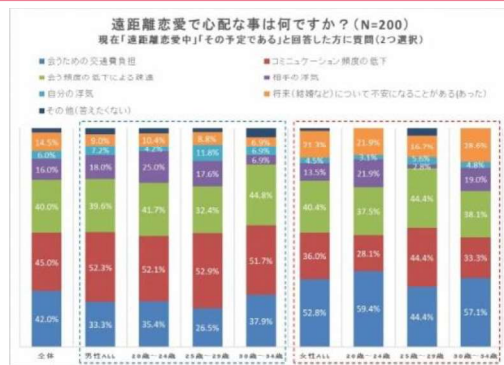
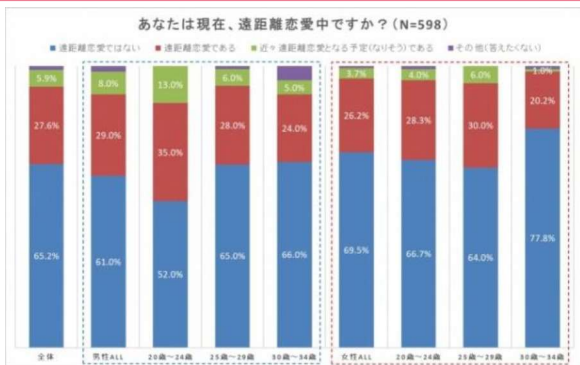
金沢工業大学 工学部 情報工学科
中沢研究室 安達 聡子

目的

抱き枕と相手の生体情報を用いて非言語コミュニケーションを再現し、相手がそばにいないようながりを感ぜられるようにすることで離れている寂しさや不安を解消させる

背景

誰にでも遠距離恋愛になる可能性があり、不安を抱いている人が多い



約3人に1人が遠距離恋愛を経験(予定も含む) コミュニケーション頻度の低下を心配する人が多い

出典：結婚相手紹介サービス 楽天オーネット「恋人のいる独身男女の遠距離恋愛に関する調査」

問題点

非言語コミュニケーションでの情報やつながりを得られず不安になる

コミュニケーション頻度の低下

直接会う頻度が減り、
文字でのコミュニケーション
(LINEやメール)が中心になる



非言語コミュニケーションが困難

離れているからこそ
できないことがある

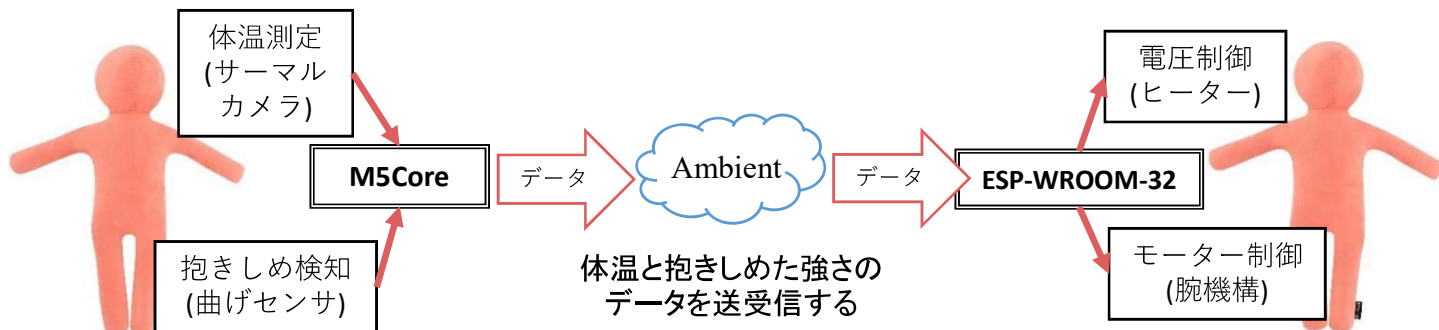
- ・ 体温を感じる
- ・ 抱きしめる

⋮



方法

抱き枕で相手の体温と動作を再現する



評価方法

睡眠の変化やリラックス度を測定をする

入眠時間や睡眠の質を測定

抱き枕を使う前の入眠時間や睡眠の質を測定しておき、抱き枕を使い始めてからの数日間の測定結果と比較する

心拍の分散値を測定

心拍を60回測定し、心拍間の分散値 $V = 1/N * (Xi - \text{mean}(X))^2$ で計算し、リラックスしているか測定する

アンケート

安心感を得られるかどうか評価してもらう